



Infor LN 外部統合取引に関するカスタマイズガイド

重要事項

本書に含まれる資料（あらゆる補足情報を含む）は、Inforの機密及び専有情報に相当し、かつそれを含むものです。

添付を使用するにあたり、使用者は、当該資料（当該資料のあらゆる修正、翻訳または翻案を含む）、すべての著作権、企業秘密、及びそれに関係するすべてのその他権利、権原及び利益はInforが独占所有するものであり、使用者には、別の契約（この別契約の契約条項によって、貴社の当該資料及びすべての関連する補足情報の使用が規定されます）に基づいてInforより貴社に使用許諾されたソフトウェアに関連し、またその使用を促進することのみを目的（以下、「目的」という）として、当該資料を使用するための非独占的権利以外、使用者の閲覧に基づく権利、権原及び利益（すべての修正、翻訳または翻案を含む）は付与されるものではないことを認識し、それに同意するものとします。

更に、同封の資料を使用するにあたり、使用者は、使用者が当該資料を極秘扱いで保管しなければならないこと、そして使用者の当該資料の使用は上述の「目的」に限定されることを認識し、それに同意するものとします。Inforは、本書に含まれる内容に誤りや洩れがないよう細心の注意を払っていますが、本書に含まれる内容が完全なもので、誤植やその他の誤りがなく、使用者の個別の要望を満たすことは保証しません。したがって、Inforは、本書（あらゆる補足情報を含む）の誤りまたは不備により、またはそれに関連して生じたあらゆる個人または団体に対する、あらゆる間接的または直接的損失または損害について、その誤りまたは不備が過失、事故またはその他の理由によるものであるかどうかにかかわらず、一切の責任を負わず、かつそれを放棄するものとします。

使用者の本資料の使用は、米国輸出管理法及びその他に限定しない輸出入の適用法に準拠するものとし、使用者は、本資料及びあらゆる関係資料または補足情報を当該法律に違反して、直接的または間接的に輸出または再輸出してはならず、またこれらの資料を当該法律により禁止されるいかなる目的にも使用してはなりません。

商標確認

ここに示す文字標章及び図形標章は、Infor及び/またはその関連会社ならびに子会社の商標または登録商標、あるいはその両方です。無断複製・転載を禁ず。参照されるすべての他の社名、製品名、商標名またはサービス名は各所有者の登録商標または商標です。

発行情報

文書コード	tfextinttransug (U9002)
リリース	10.5 (10.5)
発行日	2017 年 12 月 21 日

目次

文書情報

第1章 概要.....	7
概要.....	7
目的.....	7
定義、頭字語、略称.....	7
第2章 手順.....	9
手順.....	9
概要.....	9
マスタデータ.....	9
マッピング体系.....	9
統合取引.....	10
第3章 マスタデータの設定.....	11
マスタデータの設定.....	11
初期化スクリプト.....	11
ビジネスオブジェクト (tfgld454).....	11
要素 (tfgld456).....	12
統合伝票タイプ (tfgld457).....	13
統合伝票タイプ別要素 (tfgld458).....	14
追加手順のステップ.....	15
第4章 マッピング体系の設定.....	17
マッピング体系の設定.....	17
手順.....	17
第5章 外部統合取引.....	19
外部統合取引.....	19
統合取引 (tfgld482).....	19
ログ済要素 (tfgld481).....	27
未マップ/未転記統合取引 (tfgld487).....	28
統合取引別元帳コード (tfgld486).....	28

文書情報

この文書では、マッピング体系のマスタデータを設定する手順を説明します。また、外部統合で使用される統合伝票タイプのマッピング設定を通じてマッピング体系を拡張する手順についても説明します。

本書の使い方

コメント

弊社は常に文書の見直しや改善を行っていますが、この文書に関するご意見、ご要望などありましたら、documentation@infor.com にご連絡ください。

送信の際には文書番号およびタイトルを明記してください。情報が具体的であるほど迅速な対応が可能です。

Infor へのお問い合わせ

Infor 製品に関するお問い合わせは、Infor Xtreme Support ポータル www.infor.com/inforxtreme をご利用ください。

製品リリースに関する更新情報は、この Web サイトに掲載いたします。このサイトを定期的にご確認ください。

Infor ドキュメントに関するご質問・ご意見は、documentation@infor.com までご連絡ください。まずようお願いいたします。

概要

目的

ERP LN 6.1 の「財務会計」は、給与アプリケーションなどの外部アプリケーションから発生する財務統合取引を受け入れることができます。

本書では、「財務会計」における外部統合取引の最終インポートおよび後処理に必要な手順を説明します。

注意

備考: ERP LN 6.1 の新機能である調整取引のログは、外部統合では無効です。

定義、頭字語、略称

本書で使用する定義、頭字語、および略称がアルファベット順に記載されています。

用語	定義
DAL	データアクセス層
DLL	動的リンクライブラリ
元帳コード	元帳勘定とディメンションの特定の組合せを定義するコード
GUID	グローバル一意識別子

手順

概要

外部ソースから「財務会計」に統合取引をインポートするには、まず一連のマスタデータを初期化し、外部統合で使用する統合伝票タイプ用のマッピング設定を使用してマッピング体系を拡張する必要があります。

マスタデータ

ERP LN 6.1 の「財務会計」における統合マッピングは、多くの面で、以前のバージョンの ERP LN の統合マッピングと異なります。主な違いは、ERP LN 6.1 では統合マッピングにメタモデルのデータモデルを使用することです。これは、データベースフィールドが具体的なオブジェクト (購買オーダー、サービスオーダーなど) も具体的な要素 (取引先、原価構成要素、品目など) も直接参照しないことを意味します。代わりに、メタモデルによって、どのビジネスオブジェクトと要素が特定の統合取引 (テーブル tfgld482) またはログ要素 (テーブル tfgld481) について参照されるのかを定義します。

これらのメタモデルのマスタデータを、初期化スクリプトによって、マッピング体系でできるように初期化する必要があります。詳細は、第 3 章「マスタデータの設定」を参照してください。

マッピング体系

外部マスタデータの初期化後、既存のマッピング体系をコピーして新しいマッピング体系バージョンを作成します。この新しいマッピング体系バージョンを、外部マスタデータ用のマッピング設定、つまり新しい外部統合伝票タイプで拡張する必要があります。手順については、第 4 章「マッピング体系の設定」を参照してください。

統合取引

新しいマッピング体系バージョンを有効化すると、システムが新しい外部統合取引を受け入れる準備が整います。

「財務会計」の統合取引テーブルに外部取引をインポートするもっともわかりやすい方法は、以前のバージョンの ERP LN で行っていたように、交換体系を使用する方法です。

以前のバージョンの ERP LN と比較して、いくつかの点で異なるデータが提供されているので (特に前述のビジネスオブジェクトおよび要素)、より多くのデータのログが必須です。詳細については、第 5 章「外部統合取引」を参照してください。

マスターデータの設定

初期化スクリプト

- 関連するテーブルの DAL (DAL.NEW) を使用する初期化スクリプトを記述して、以下のセクションで説明するデータベーステーブルの行を作成する必要があります。
- 本書に記載されている命名規則を厳守してください。規則を守らないと、(将来の) 標準データと混同される可能性を排除できません。

ビジネスオブジェクト (tfgld454)

このテーブルは、たとえば統合取引 (tfgld4582m000) セッションに表示される統合取引の一部となるビジネスオブジェクトを示します。

フィールド	記述	フォーマット	ドメイン	[必須] *	補足
bona	ビジネスオブジェクト	str(17)	tcbona	Yes	先頭は「#」にします。先頭以外の文字は自由です。この名前は、たとえば統合取引 (tfgld4582m000) セッションに表示されます。
lita	取引ログ使用可	enum	tctyesno	Yes	値: tctyesno.yes
maal	マッピング可能	enum	tctyesno	Yes	値: tctyesno.no

* 外部データの場合、この設定は、テーブルフィールドのプロパティと異なる場合があります。

要素 (tfgld456)

このテーブルは、統合取引に関してログに記録される要素を示し、主に元帳勘定およびディメンションマッピングに使用されます。要素は、たとえばマッピング体系を設定するときに表示されます。

フィールド	記述	フォーマット	ドメイン	[必須] *	補足
elcd	要素コード	str(12)	tfgld.elcd	Yes	文字列「EXT」で始まる必要があります。他の文字は数字でなければなりません。
bonm	ビジネスオブジェクト	str(17)	tcbona	Yes	tfgld454.bonaへのソフト参照
boat	ビジネスオブジェクトの属性	str(17)	tcboat	Yes	先頭は「#」にします。先頭以外の文字は自由です。この名前は、マッピング体系のメンテナンス時に表示されます。
elds	要素記述	str(30)	tcdsca	Yes	ユーザに表示される要素の説明
levl	要素レベル	byte	tfgld.srno	Yes	値: 1
pecd	親要素	str(12)	tfgld.elcd	No	空にしておきます (外部では使用されません)
rcel	調整要素	str(12)	tcrelc	No	空にしておきます (外部では使用されません)

bpyn	取引先	enum	tctyesno	Yes	値: tctyesno.no (外部では使用 されません)
expi	期限切 y/n	enum	tctyesno	Yes	値: tctyesno.no

* 外部データの場合、この設定は、テーブルフィールドのプロパティと異なる場合があります。

統合伝票タイプ (tfld457)

このテーブルは、たとえば統合取引 (tfld4582m000) セッションに表示される統合取引の一部となる統合伝票タイプを示します。

フィールド	記述	フォーマット	ドメイン	[必須] *	補足
idtc	統合伝票タイプ	str(8)	tcdty	Yes	文字列「EXT」で始まる必要があります。他の文字は数字でなければなりません。
idtd	統合伝票タイプ 記述	str(30)	tcdsca	Yes	先頭は「#」にします。先頭以外の文字は自由です。この名前は、たとえば統合取引 (tfld4582m000) セッションに表示されます。
bonm	ビジネスオブジェクト	str(17)	tcbona	Yes	tfld454.bona へのソフト参照
secd	ソート要素	str(12)	tfld.elcd	No	tfld456.elcd へのソフト参照。ソート要素機能を使用する場合のみ入力する必要があります。
modt	修正可能な伝票タイプ	enum	tctyesno	Yes	値: tctyesno.no

ppdt	転記詳細を発行	enum	tctyesno	Yes	値: tctyesno.no (外部では使用 されません)
expi	期限切 y/n	enum	tctyesno	Yes	値: tctyesno.no
lemm	元帳マッピング 必須	enum	tctyesno	Yes	値: tctyesno.yes
dlae	全要素の借方を 記録	enum	tctyesno	Yes	値: tctyesno.yes
clae	全要素の貸方を 記録	enum	tctyesno	Yes	値: tctyesno.yes
maal	マッピング可能	enum	tctyesno	Yes	値: tctyesno.yes
ltia	統合勘定科目と のリンク	enum	tctyesno	Yes	値: tctyesno.yes

* 外部データの場合、この設定は、テーブルフィールドのプロパティと異なる場合があります。

統合伝票タイプ別要素 (tfgld458)

このテーブルは、特定の統合伝票タイプについてログに記録される要素を示し、元帳勘定およびディメンションマッピングのマッピング体系内で使用されます。

フィールド	記述	フォーマット	ドメイン	[必須] *	補足
idtc	統合伝票タイプ	str(8)	tcidty	Yes	tfgld457.idtcを参照します。
elcd	要素コード	str(12)	tfgld.elcd	Yes	tfgld456.elcdを参照します。
dele	借方元帳マッピングを適用可能	enum	tcyesno	Yes	値: tcyesno.yes
crle	貸方元帳マッピングを適用可能	enum	tcyesno	Yes	値: tcyesno.yes
nefi	入力不可	enum	tcyesno	Yes	値: tcyesno.no
bpgl	総勘定元帳の取引先	enum	tcyesno	Yes	値: tcyesno.no (外部では使用されません)

* 外部データの場合、この設定は、テーブルフィールドのプロパティと異なる場合があります。

追加手順のステップ

初期化スクリプトの実行後、次のステップを実行します。

1. ビジネスオブジェクトおよび統合伝票タイプの言語依存記述を更新するために、統合パラメータ (tfld4150s000) セッションで適切なメニューの [記述の初期化] を選択します。
2. 統合取引タイプ別期間処理 (tfld4579m000) セッションで、統合伝票タイプと借方/貸方の各組合せについて、[クローズ期間処理] を [次の未決済期間に転記] または [現在の期間に転記] に設定します。(例外処理は内部ビジネスオブジェクトにのみ適用されます)。
テーブル tfld479 はすべての財務会社で共有する必要があるため (要確認)、個々の財務会社についてこのステップを繰り返す必要はありません。

マッピング体系の設定

手順

次に、標準のマッピング体系機能を使用して、新しく追加した外部統合伝票タイプについて、元帳勘定およびディメンションマッピングを設定します。

これは、マッピング体系に新しいマッピングを追加するときの会社の通常の手順で行います。一番わかりやすい方法は、既存のマッピング体系を新しいマッピング体系バージョンにコピーする方法です。次に、外部伝票タイプについてマッピングを追加できます。最後に、マッピング体系の一貫性を確認する必要があります。すべてのエラーを修正した後、マッピング体系を有効化できます。

外部統合取引

これで、システムが外部ソースから財務統合取引を受け入れる用意が整いました。

財務会計の統合取引テーブルに外部取引をインポートするもっともわかりやすい方法は、以前のバージョンの LN で行っていたように、交換体系を使用する方法です。

以下のセクションでは、ログに記録される取引の要件をリストしています。

以下のデータベーステーブルが関係します。

- 統合取引 (tfgld482)
- ログ済要素 (tfgld481)
- 未マップ/未転記統合取引 (tfgld487)
- 統合取引別元帳コード (tfgld486) (元帳コードが関係する場合)

統合取引は、(tfgld482 において) 貸方取引とそれに対応する借方取引のペアとしてログに記録する必要があります。両方の取引は、同じ財務会社保存されます。これは貸方取引の財務会社です (このことは関係会社間転記において重要です)。両方の取引に同じ GUID を割り当てる必要があります (以下を参照)。取引は tfgld487 において同じ未マップ/未転記データを参照します。

各統合取引は、関連ログ済要素のセットを有することができます (tfgld481)。統合取引に元帳コードが付属している場合は、tfgld486 に追加の行を保存する必要があります。

元帳コードを使用する場合、元帳勘定とディメンションの決定においてマッピング体系はバイパスされ、取引は、元帳コードについて定義された元帳勘定およびディメンションに転記されます。

統合取引 (tfgld482)

このテーブルには、個々の統合取引が含まれます。

注意

関連する借方取引と貸方取引には同じ GUID が割り当てられている必要があります。

フィールド	記述	フォーマット	ドメイン	[必須] *	補足
-------	----	--------	------	--------	----

guid	グローバル一意識別子	str(22)	tcguid	Yes	関連する借方取引と貸方取引で同じでなければなりません。関数 <code>uuid.generate\$()</code> を使用して割り当てられます。
dbcr	貸借インジケータ	enum	tfgld.dbcr	Yes	
ocmp	ソースのロジスティック会社	int(3)	tcncmp	Yes	ビジネスオブジェクトがあるロジスティック会社。関連する借方取引と貸方取引で同じでなければなりません。
idtc	統合伝票タイプ	str(8)	tcidty	Yes	関連する借方取引と貸方取引で同じでなければなりません。 <code>tfgld457.idtc</code> を参照します。
trdt	取引日	UTC 日付	tcdte	Yes	伝票日付の基準となる日付。関連する借方取引と貸方取引で同じでなければなりません。
tcmp	ロジスティック会社	int(3)	tcncmp	Yes	ソースのロジスティック会社と同じ (<code>tfgld482.ocmp</code>)
secd	ソート要素	str(12)	tfgld.elcd	No	<code>tfgld456.elcd</code> へのソフト参照。ソート要素機能を使用する場合のみ入力する必要があります。

seva	ソート要素値	str(50)	tcelva	No	tfgld482.secd に属します。
rbon	ビジネスオブ ジェクト	str(17)	tcbona	Yes	関連する借方取引と貸方取引で 同じでなければ なりません。 tfld454.bona を参照します。
rbid	ビジネスオブ ジェクト ID	str(11)	tcboid	Yes	関連する借方取引と貸方取引で 同じでなければ なりません。ビジネスオブ ジェクトの ID は、 たとえば購買 オーダーの場合は 購買オーダー番号 です。
rpon	ソート位置	long(8)	tcsopo	No	関連する借方取引と貸方取引で 同じでなければ なりません。ビジネスオブ ジェクトを基準に詳細な ソートを行うためにイン デックスで使用 され (インデックス tfld482 を参照)、特に 統合取引 (tfld4582m000) で使用されま す。
obre	ビジネスオブ ジェクト参照	str(40)	tcborf	No	関連する借方取引と貸方取引で 同じでなければ なりません。ビジネスオブ ジェクト ID の拡張 で、より正確に 取引が関係する 発生元を指定し ます。最初の部分 は

					tfgld482.rpon と同じでなければなりません。
buid	ビジネスオブジェクト参照 GUID	str(22)	tcguid	No	空にしておきます。外部では使用されません。
bpid	取引先	str(9)	tccom.bpid	No	tccom100 へのソフト参照。総勘定元帳において取引と共にログに記録する必要がある取引先
ttyp	取引タイプ	str(3)	tfgld.ttyp	No	空にしておきます。転記中に決定されます。
docn	伝票番号	long(8)	tfgld.docn	No	空にしておきます。転記中に決定されます。
btno	バッチ番号	long(6)	tfgld.btno	No	空にしておきます。転記中に決定されます。
lino	ライン番号	long(8)	tfgld.lino	No	空にしておきます。転記中に決定されます。
sint	取引状況	enum	tfgld.ints	Yes	元帳コードが含まれる場合は tfgld.ints.mapped に、それ以外の場合はデフォルトで tfgld.ints.logged に設定する必要があります。
crdt	作成日	UTC 日付	tcdte	Yes	関連する借方取引と貸方取引で同じでなければなりません。統合取引の実際の作成日

crus	ユーザ (作成)	str(16)	tfgld.user	Yes	取引をログに記録するユーザのユーザ ID (logname\$)。関連する借方取引と貸方取引で同じでなければなりません。
usgr	財務ユーザグループ	str(6)	tfgld.usgr	No	tfgld435 を参照します。tfgld482.crus については tfgld436 から取得されます。ただし存在する必要はありません。
pous	ユーザ (転記)	str(16)	tfgld.user	No	空にしておきます。転記中に決定されます。
podt	転記日	UTC 日付	tcdte	No	空にしておきます。転記中に決定されます。
prin	出力済	enum	tctyesno	Yes	値: tctyesno.no
glcu	元帳コード使用	enum	tctyesno	Yes	元帳コードを使用する場合は値を tctyesno.yes に、それ以外の場合は tctyesno.no に設定します。
fcom	財務会社	int(3)	tcncmp	Yes	総勘定元帳が取引を転記する必要がある財務会社。関連する借方取引と貸方取引で異なる場合があります。貸方取引では、常に統合取引がログに記録される財務会社でなければなりません。

					(物理的な財務会社)。
leac	元帳勘定	str(12)	tfgld.leac	No	元帳コードを使用しない場合は空にします。元帳コードを使用する場合は、tfgld475 から取得して入力します。
dim1	ディメンション 1	str(6)	tfgld.dimx	No	tfgld482.leac を参照します。
dim2	ディメンション 2	str(6)	tfgld.dimx	No	tfgld482.leac を参照します。
dim3	ディメンション 3	str(6)	tfgld.dimx	No	tfgld482.leac を参照します。
dim4	ディメンション 4	str(6)	tfgld.dimx	No	tfgld482.leac を参照します。
dim5	ディメンション 5	str(6)	tfgld.dimx	No	tfgld482.leac を参照します。
amnt	取引額	double	tfgld.amnt	Yes	関連する借方取引と貸方取引で同じでなければなりません。適切に丸めます。ゼロは有効な値です。
ccur	取引通貨コード	str(3)	tcccur	Yes	関連する借方取引と貸方取引で同じでなければなりません。tcmcs002 を参照します。
ratd	為替レート日付	UTC 日付	tcdte	Yes	自国通貨の為替レートが取得された日付。通常は tfgld482.trdt と同じです。

rtyp	為替レートタイプ	str(3)	tcrtyp	Yes	自国金額の計算に使用されるレートタイプ。通常は (財務) 会社の内部レートタイプ (tcomm170.exeu) と同じです。
レート	為替レート	double (array)	tcratc	Yes	取引の財務会社の自国通貨に対するレート。標準の tcomm.dll5000/5010 機能を使用して取得できます。
ratf	為替レート係数	long(6) (array)	tcratf	Yes	取引の財務会社の自国通貨に対するレート係数。標準の tcomm.dll5000/5010 機能を使用して取得できます。
eibc	基準通貨での表示インジケータ	enum (array)	tcyesno	Yes	取引の財務会社の自国通貨に対する [基準通貨での表示] インジケータ。標準の tcomm.dll5000/5010 機能を使用して取得できます。
amth	金額 (自国通貨)	double (array)	tfld.amnt	Yes	取引の財務会社の自国通貨で表される金額。標準の tcomm.dll5000/5010 機能を使用して計算されます。計算後、適切に丸めます。

cuni	数量の単位	str(3)	tccuni	No	tcmcs001 を参照します。数量をログする場合は入力します。
nuni	数量	double	tfgld.quan	No	tfgld482.cuni に属します。
fyer	会計年度	int(4)	tfgld.year	Yes	tfgld482.fprd を参照します。
fprd	会計期間	int(2)	tfgld.prod	Yes	入力する必要があります。tfgld005 に存在する必要があります。tfgld482.trdt に基づいて決定できます (処理日および会計期間がつながっていることが望ましい)。
ryer	レポート年度	int(4)	tfgld.year	No	レポート期間を使用する場合は必須です。tfgld482.fyer を参照します。
rprd	レポート期間	int(2)	tfgld.prod	No	レポート期間を使用する場合は必須です。tfgld482.fprd を参照します。
tyer	税金年度	int(4)	tfgld.year	Yes	tfgld482.fyer を参照します。
tprd	税金期間	int(2)	tfgld.prod	Yes	tfgld482.fprd を参照します。
mscd	使用マッピング 体系コード	str(6)	tfgld.mscd	No	空にしておきます。マッピング中に決定されます。
msvs	使用マッピング 体系バージョン	long(5)	tfgld.msvs	No	空にしておきます。マッピング

中に決定されます。

* 外部データの場合、この設定は、テーブルフィールドのプロパティと異なる場合があります。

ログ済要素 (tfgld481)

このテーブルは、統合取引別のログ済要素を含みます。この要素は統合取引のマッピングに使用されます。

フィールド	記述	フォーマット	ドメイン	[必須] *	補足
guid	グローバル一意識別子	str(22)	tcguid	Yes	tfgld482.guid へのソフト参照
dbcr	貸借インジケータ	enum	tfgld.dbcr	Yes	tfgld482.dbcr へのソフト参照
seqn	連番	int(4)	tcpono	Yes	1 次キーを拡張するための連番です。最初の 30 要素は連番 1 の行に保存され、次の 30 要素は行番号 2 に、というようになります。
elcd	要素コード	str(12) (array)	tfgld.elcd	Yes	各要素は tfgld456.elcd をソフト参照します。値が空の要素をログに記録する必要はありません。
elva	要素値	str(50)	tcelva	Yes	tfgld481.elcd に属します。

* 外部データの場合、この設定は、テーブルフィールドのプロパティと異なる場合があります。

未マップ/未転記統合取引 (tfgld487)

このテーブルは統合取引のペアを含み、マッピングおよび転記に使用されます。このテーブルは tfgld482 の親テーブルです。

フィールド	記述	フォーマット	ドメイン	[必須] *	補足
guid	グローバル一意識別子	str(22)	tcguid	Yes	= tfgld482.guid
sint	取引状況	enum	tfgld.ints	Yes	値: tfgldints.logged
ocmp	ソースのロジスティック会社	int(3)	tcncmp	Yes	= tfgld482.ocmp
fcom	貸方財務会社	int(3)	tcncmp	Yes	貸方取引の財務会社
rbon	ビジネスオブジェクト	str(17)	tcbona	Yes	= tfgld482.rbon
idtc	統合伝票タイプ	str(8)	tcidty	Yes	= tfgld482.idtc
trdt	取引日	UTC 日付	tcdate	Yes	= tfgld482.trdt
usgr	財務ユーザグループ	str(6)	tfgld.usgr	No	= tfgld482.usgr
crdt	作成日	UTC 日付	tcdate	Yes	= tfgld482.crdt

* 外部データの場合、この設定は、テーブルフィールドのプロパティと異なる場合があります。

統合取引別元帳コード (tfgld486)

このテーブルは、統合取引で使用された元帳コードを示します。

フィールド	記述	フォーマット	ドメイン	[必須] *	補足
guid	グローバル一意識別子	str(22)	tcguid	Yes	= tfgld482.guid
dbcr	貸借インジケータ	enum	tfgld.dbcr	Yes	= tfgld482.dbcr
fcom	財務会社	int(3)	tcncmp	Yes	= tfgld482.fcom。 tfgld475.fcmp へのソフト参照
glco	元帳コード	str(50)	tcglco	Yes	tfgld475.glcd へのソフト参照

* 外部データの場合、この設定は、テーブルフィールドのプロパティと異なる場合があります。

